



柿生文化

平成21年12月22日
川崎市立柿生中学校
郷土史料館情報・研究誌
第18号

本当にあった「柿生離宮」計画

—— 柿生に皇居が —— —— 松代大本営構想に次ぐ大計画 ——

校長 板倉 敏郎

太平洋戦争の始まる直前、昭和16年の春に「柿生離宮案」がもち上がった。離宮というのは皇居の別邸のことです。太平洋戦争(大東亜戦争)が始まったのは昭和16年(1941年)12月8日ですからこの計画が持ち上がったのは、戦争開始の数ヵ月前のことです。当時の宮内省次官の白根松介氏は「大本営の松代移転計画は、東条内閣時代に、本土決戦のため考えられたものだが、これとは別に宮内省で仮皇居を八王子の方に移すことを考えた。その理由は、(1)戦争が拡大したら空襲で皇居が危ない(2)皇居周辺の空気が汚れ、環境が悪くなった。という2点からであった。とにかく、宮内省としては、皇居の移転地を物色しはじめ、結局、小田急線沿線の柿生(鶴川に近い位置)がいいだろうということになった。」と述べられています。



(松平恒雄 宮相)

昭和16年4月16日、松平 宮内相(現在の宮内庁長官)と皇居の管理を行っていた内匠寮(たくみりょう)の池田秀吉氏、秘書官、護衛官の4人でハイキングと称して柿生周辺を調査しています。

そもそもこの計画の発端は、内務省の都市計画を担当していた石川栄耀氏が私的意見として提案したことから始まったようです。その案は次のようなものでした。

- (1)東京の近くに大離宮を新設する。
- (2)離宮というのは名目で、実質は本皇居とし、従来の皇居は政治向きの宮殿とする。
- (3)現皇居は、十分な防空態勢を作ることが困難である。
- (4)歴大商工業都市の真ん中であって大気の汚染が激しく皇族の健康によくない。



(鶴川村で昼食をとる松平恒雄 宮内相二左)

等でした。そして、更に柿生離宮と現皇居間約30キロの高架、または地下の専用道路で結ぶことになっていました。

しかし、この話に松平 宮内相は、あまり乗り気ではなく、後日、「あれは見合わすよ」と宣告があって、この計画は終止符を打つこととなります。

もしも、この話が実現していたら今の柿生とはずいぶん違っていたでしょうね。

岡上 東光院 その2 — 一村一寺 —

中世、東光院は嘉保元(1094)年焼失した寺を僧長海が中興し、衰退した寺を延文3(1358)年僧亮長が再興し、岡上山宝積寺東光院と号したとしております。これは寺の伝承を皇国地誌が記したのですが、不思議に思うのは、延文3年は室町時代であり、嘉保元年から約260年もの間、これほどの大刹に正式な寺号がなかったということです。(古東光院の謎)



東光院宝積寺山門

東光院には平安時代後期に造立された川崎市重要歴史記念物の「兜跋毘沙門天立像」があります。

昭和49年に指定された麻生区では唯一の立像文化財で、丸い髪を結び、右手に鉾を持ち、左手に宝塔を掲げ、地天の両手の上に立つ像高1メートル余の像ですが、頭から地天像まで一木造りの毘沙門天です。兜跋とは中国西域の兜跋国が敵に攻められた時

に樓上に現れ、敵を退散させた故事をもち、領国鎮護の意味と伝えられています。

当時、この地方には立野牧や小山田牧から生じた現町田市の大平と麻生区に及ぶ小山田荘と呼ぶ在地武士団がありました。中央では地方支配が崩れて戦国の世となりますので、小山田一族の在地武士と岡上周辺農民が宗門護持、佛教による外的排除を願っての毘沙門天造立ではなかったのではないのでしょうか。なお、この像について市の文化財図鑑は「貴重な作風に触れ、恐らく当地で製作されたもの…」としていますので、当時の岡上が持っていた文化を窺い知ることができます。

近世、東光院は一村一寺、多摩郡、都筑郡と揺れ動く岡上村の歴史と共に法灯を継いでいきます。市内最古で知られる岡上村検地帳(天正19年)には、東光院と記された箇所が二十八あるといい、慶長年間に関東三十五寺のひとつとして法度が出され、慶安元(1648)年三代将軍徳川家光より寺領十五石の朱印を与えられています。

現東光院の境内には多くの文化財があります。本堂、山門は東向きで寺としては珍しく、共に宝暦年間の建立で、寺号の縁起を物語り、本堂に隣接する位牌堂は八代将軍徳川吉宗の頃の建立と云われ、堂内は重厚であり、如何に寺が祖霊を大切にしていたかが分かります。山門(仁王門)、瘡守社、蚕影山祠堂(民家園移設)。そして、菩薩像や宝塔が十三基、村人との関わりを今に伝えています。

なお、東光院には先代福井一道住職先達の、宗教の学術研究組織があり、現在も宗教文化啓蒙誌「宝積」が発行されています。

文、小島一也氏



蚕影山祠堂(民家園)



瘡守稲荷

柿生・岡上にもいた自由民権活動家

—— 第16回カルチャーセミナーで明らかになる ——

11月26日(木)に町田市自由民権資料館勤務の松崎稔氏をお招きして「町田の自由民権運動と柿生」というテーマでご講演をいただきました。

自由民権運動は明治初期から起こったもので最初は、新政府に不満をもつ士族層で目標もあまり明確ではありませんでした。やがて民撰議院設立建白書の提出、そして地租軽減、条約改正、国会の開設、憲法制定などを要求するようになり、その担い手も士族層から知識人、地方豪農、豪商層が中心になっていきました。

柿生・岡上の自由民権運動は、今まで、明らかにされていませんでしたが、昭和60年県立柿生西高等学校歴史研究同好会が「柿生の自由民権家」という冊子を発刊し民権家の生い立ち、人柄、エピソードなどを聞き取りによって調査しています。

柿生の民権家は、明治14年原町田の「武相懇親会」がつくられ黒川の梅沢象太郎らが参加しています。また、当時民権運動の一大勢力であった「自由党」には片平の中山作造、神藤喜平、荒井仲次郎、村野勇次郎、栗木の鈴木撰四郎らが入党していました。その他、栗木の飯塚民右衛門、黒川の立川林平などもあげられます。

明治25年11月23日の『自由』誌第429号によりますと「神藤喜兵衛などの有志が『柿生村の演説会』と銘打って11月19日に修広寺で政談演説会を開催した。東京より4氏を招き、市ヶ尾まで出迎え自由万歳、民党万歳の旗を、さらに吹流し数十本をたて、4氏の到着と同時に花火数十本が打たれた。前夜の雨で道路が泥だらけであるにもかかわらず傍聴者は、約千人にも及び、このような会は、近年なかった」と記しています。演説内容は、また後日書きます。



黒川の
梅沢象太郎



第18回 カルチャーセミナー開催のご案内

- | | |
|-------|--|
| 1、期 日 | 平成22年1月20日(水) 午後5時30分より |
| 2、会 場 | 柿生中学校 2階 視聴覚室 |
| 3、講 師 | 浜田 晋介氏 (川崎市民ミュージアム学芸員) |
| 4、テーマ | 「川崎縄文1万年」 — 古代柿生・岡上の生活を探る — |
| 5、内 容 | ・市民ミュージアム特別展の展示責任者が語る古代人の姿
・実物史料で判る古代柿生・岡上の人々の暮らし |

第19回 カルチャーセミナー開催のご案内

- | | |
|-------|----------------------------|
| 1、期 日 | 平成22年2月12日(金) 午後5時30分より |
| 2、会 場 | 柿生中学校 2階 視聴覚室 |
| 3、講 師 | 望月 一樹氏 |
| 4、テーマ | 「江戸期の古文書・絵図から判る柿生・岡上の姿」 |
| 5、内 容 | ・地域の古文書、絵図を見ながら江戸時代の様子を知る。 |

タタラ製鉄(古代製鉄法)実験実施のご案内

— 3月20日(土) —
— 鶴見川の砂鉄使用 —

「柿生文化」15号から17号にかけて「柿生鉄の系譜」と題して、柿生の古代文化と鶴見川の砂鉄と製鉄について連載させてもらいました。

その検証として現在、何人かの生徒諸君の力を借りながら鶴見川で砂鉄を採取しております。この度、3月20(土)にこの砂鉄を利用して古代タタラ製鉄の方法を使って日本刀などに使われる玉鋼(たまはがね)を取り出す実験をしたいと考えております。

先月、東京千代田区にあります科学技術館で行なわれたタタラ製鉄実験に参加してまいりました。本来ならば3日3晩かけて行なわれるタタラ製鉄ですが、約6~7時間で行なう方法を考案し、短時間でのタタラ製鉄を実際に行なっております。

詳しいご案内は、2月の「柿生文化」でご案内いたしますので是非ともご参加くださいますようお願いしております。



(タタラ炉から排出される溶けたノロ不純物)

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

22年に完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料(古文書や生活道具類)で譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしく願いいたします。

このような史料はありませんか

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵地図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」・「新聞」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鎌」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。